

宮崎文雄 **くらしの相談室**
どんな事でもお気軽に 区政、教育、
法律、環境、雇用、福祉等
TEL/FAX：03-3268-3823
メールアドレス：fmiyazaki0320@yahoo.co.jp
URL：http://www.j-miyazaki.com
文京区関口 1-23-6



文京区議会議員

宮崎文雄
レポート
REPORT

平成24年2月
区政報告

ずーっと
議員削減を主張し
ボランティアを
応援しています。

私の**初夢**。大都市構想。

行政改革 東京都
23区を8区に

橋下大阪市長の大都市制度改革が話題になっていますが私は、今から10年前に当時の煙山区長に23区の再編論議として代表質問をしています。以下は当時質問した概要です。

『区などの市町村合併の推進は私の選挙公約の一つであります。政府は平成12年12月1日、21世紀の行政のあり方として、公務員制度の抜本改革とともに、市町村合併の推進を行政改革大綱として閣議決定しております。この中で、合併では与党合意の「自治体数、千を目標」が盛り込まれています。自治省では、平成12年度の早い段階に、区市町村の合併の線引きを都道府県に提出するように言っております。

私は本来、区市町村合併は、合併機運の高まりのもとで区市町村が主体的に取り組むことが重要と考えておりますが、地方分権のうねりと財政悪化が重なり、全国の市町村で合併を模索する動きが活発になってきました。

大宮市や浦和市などが合併し、さいたま市ができ、東京都内でも田無市と保谷市が合併し西東京市が誕生したばかりです。23区も例外でもないかもしれません。財政状態が極めて深刻な区が多く、行政改革と自立のため、6市から8市に整理統合しようという意見が出ています。

23区の財政状況の悪化は、各区の経常比率からも明らかです。経営比率は人件費や公債費、生活扶助費などの義務的経費が、税収などの一般財源に占める割合が、70%から80%以下が適正水準と言われていますが、どの区も適正水準を満たしていません。

23区の再編議論は、こうした各区の状況を見据えて出てきています。そのねらいは、政令指定都市並みの特別市に再編し、より住民に密着した行政運営を目指そうというものであります。その方法については、さまざまな提案がなされつつありますが、都市や副都心を中心とした放射線状の区割りでは6市から8市にと提唱するのは財団法人森記念財団で、その資料によると、6特別市構想は、千代田市、城東市、城南市、渋谷市、新宿市、池袋市であります。これは、東京人の通勤、通学、買い物などの行動調査や研究を踏まえての提案ですが、生活圈や我がまち意識もあり難しいところでもあります。

23区の法人住民税などは都が徴収し分配してるわけですが、企業の本社が都心に集中するため、市の実現には財政基盤の確立がとりわけ重要になり、それが割り振りに影響しています。

少子高齢化や環境問題、情報化の進展への対応など、地方分権を推進するに当たり、21世紀のあり方として、市町村合併が行政改革のメインテーマになる事は必然的であるように思われます。

このような区市町村合併の動向を見ながら、区長に「区長は区市町村合併について、現在、どのようにお考えか、お聞かせ下さい。」という質問をしました。煙山前区長の答弁は概ね「制度改革の実現がなった現在でも、なお都区間の大都市事務に関する事柄が課題として残されました。また、清掃事業に携わる職員の身分関係についても、過度的な段階にあります。私はこれらの問題解決がまず必要であると考えております。したがって、合併につきましては、何よりも住民である区民の意見が尊重されるべきもので、それを十分踏まえる事が不可欠であり、極めて慎重に対応すべきものと認識しております。」という回答をいただきました。煙山前区長は大都市構想はまだ尚早だという結論でした。

これが平成13年第二回定例会に於ける私の代表質問です。橋下市長のもと、大阪都構想が推進されておりますが、この構想は東京都をモデルとしており、東京都23区のように大阪都20区にする構想だそうです。

東京都23区特別区は平成12年に「基礎的な地方公共団体」となっており、大阪は10年以上遅れている事になります。モデルとされる東京都23区も色々と問題をかかえており、私は23区を8市でなく、このまま特別区で8区ぐらいにすべきだと思っております。1区を人口約120万人から150万人ぐらいにして合理的に組織化すべきです。文京区は人口20万人ですが小さいなりに、役所の窓口や役職等の組織は大きな区と同じです。文京区の人件費比率は23区中、トップクラスです。適正な区としての大きさにしてムダを省くべきです。8区になれば区長も8人でよく、議員も職員も約1/3で出来るはずです。サービスの低下を防ぐためには、出張所（活動センター）はそのまま残すべきです。制度自体を変えない限り行政改革はなかなか難しく大幅な定数の削減は出来ません。強いリーダーシップと賢い区民が協働すれば出来ない事はないはずです。

将来を考えれば今から推進すべきだと思います。応援をお願いします。



文京シビック (区役所)

文京区の給食は大丈夫か？

給食の素材などに放射性物質が含まれていないか、保護者の方々は御心配でしょう。

区ではそれに答えて、給食の放射性物質測定を行いました。

現時点では専門家は人体に影響を与えていないと分析しています。

給食提供年月日 平成23年12月9日(金)

検査結果

【調理済み給食】

施設名	献立	測定結果 単位: Bq/kg		
		放射性	放射性	放射性
		ヨウ素 - 131	セシウム - 134	セシウム - 137
本郷保育園	筑前ごはん、すまし汁、白身魚の磯辺揚げ、白菜のごま煮、ミニトマト、みかん、かぼちゃ蒸しパン、牛乳	< 0.7	0.9	1.0
向丘保育園	筑前ごはん、すまし汁、白身魚の磯辺揚げ、白菜のごま煮、ミニトマト、みかん、ココアマドレーヌ、牛乳	< 0.7	0.7	0.7
根津保育園	フランスパン、生鮭のコーンマヨネーズ焼き、キャベツのカレーソテー、とろみスープ、ラフランス、野菜パー(おやつ)牛乳、豆乳、ゴマチーズスティック	< 1.1	< 1.0	< 1.1
慈愛会保育園	二色丼、すまし汁、豆乳煮込、里芋の揚げ出し、みかん、牛乳、炊き込みご飯	< 1.0	< 1.0	< 1.2
たんぼぼ保育園	発芽玄米ご飯、かき玉汁、生鮭のちゃんちゃん焼、白いんげん豆の煮豆、スティックきゅうり、みかん、牛乳、五平もち	< 1.0	< 1.0	< 1.0
こころの保育園文京西方	ごはん、手作りふりかけ、かぶのみそ汁、しゅうまい、切り干し大根の煮物、みかん、牛乳、ヨーグルトパフェ	< 1.0	< 1.0	< 1.3
湯島小学校	ご飯、魚の照り焼き、千草和え、みそ汁、牛乳	< 1.0	< 1.2	< 0.9
誠之小学校	ごはん、三鮮豆腐、三色ナムル、目玉焼きゼリー、牛乳	< 1.0	< 0.9	< 1.2
根津小学校	フレンチトースト、とり肉のトマトシチュー、くだもの、牛乳	< 0.9	< 1.3	< 1.3
本郷小学校	麻婆豆腐丼、春雨サラダ、くだもの、牛乳	< 1.0	< 1.1	< 1.3
第六中学校	金時ごはん、魚朝鮮風味噌焼き、野菜煮物、すまし汁、牛乳	< 1.0	< 1.1	< 1.1
本郷台中学校	エビピラフ、トマトシチュー、くだもの、牛乳	< 1.0	< 0.9	< 1.0

【牛乳】

施設名	測定結果 単位: Bq/kg		
	放射性	放射性	放射性
	ヨウ素 - 131	セシウム - 134	セシウム - 137
根津保育園	< 0.8	< 1.0	< 0.9
慈愛会保育園	< 0.8	0.9	0.9
たんぼぼ保育園	< 1.0	< 0.8	< 0.9
こころの保育園文京西片	< 1.1	< 1.0	< 1.0

検査結果の表示方法

- ・ 検出された場合には、その測定値を表示しています。
- ・ 「< . . .」と表記しているのは、検出下限値(検出できる最小の値)未満である事を表しています
(例えば、「< 1.2」とは、放射性物質の値が、0から1.2未満の範囲内です)
- ・ 検出下限値は、検査対象の給食の内容(水分の比率等)や自然界に存在する他の放射性物質(主にカリウム40)の含有量等によって変動するため、検体ごとに数値が変わります。

【今回の調理済み給食の測定値を基に年間累積放射線量を計算してみると】

検出された施設(保育園)の給食(セシウム134が0.9Bq/kg、セシウム137が1.0Bq/kg)の例で一食当たりの実効線量は、0.0117 μ Svとなります。この給食を1日3食、一年間摂取したと仮定した場合の食品による年間累積放射線量は、0.0117 μ Sv \times 3食 \times 365日 = 12.8115 μ Sv = 0.0128mSv(注)となります。この値は、厚生労働省が食品の規制値の見直し基準として示している年間1mSvと比較して、極めて低い数値です。

(注) 1mSv = 1000 μ Sv

(参考) 給食1食分の内部被ばくの実効線量は、国際放射線防護委員会が示す実効線量係数から算出しています。

ベクレル(Bq)は、放射能の強さを計る単位で、シーベルト(Sv)は、人間が放射線を受けた場合の影響を示す単位です。現在の食品に関する暫定規制値については厚生労働省から、年間1ミリシーベルトを基本に設定を見直す方向性が示されています。

12月9日提供分の測定結果について、次のとおり専門家のコメントをいただきました。

12月9日の提供給食のうち、最も測定値の高かった施設の給食のセシウム134、セシウム137は、1回の摂取で、0.0117 μ Svに相当します。仮に設定地の給食を3食、365日摂取したとして、12.8115 μ Svとなり、この値は非常に低い値であり、給食を食べるのが小児ということを加味しても理論値には人体に影響を与えないものと考えられます。

日本医科大学 放射線医学主任教授 汲田伸一郎

活動報告



地蔵通り商店街であいさつ



雪の日も交通整理とスクールガード



文京区ビーチボールクリスマス大会で